

# 駆ける トップシェア企業



小室 幸朗  
社長

の進出を試みている。

〇〇〇〇

整地作業や牧草の運搬、除雪作業などに使われるフロントローダーの国産化を目指し、油圧分野に強みを持つ技術者たちが中心となつて同社を設立したのが一九六六年。当時の輸入品はトラクターから取り外せな

トラクターの前面に取り付けて軽土木作業などに使用する「フロントローダー」の分野で国内シェアの約七〇%を握っているのが三陽機器（岡山県里庄町、小室幸朗社長）だ。この分野では設立以来ずっと国内トップの座を守っているが、農業用機械の市場自体はずっと縮小傾向が続いている。そこで、同社は既存の技術を活用しつつ新たな分野へ



はに業  
ーの前  
ローダ  
ーの軽  
トク木  
タの作  
装用  
着して  
などに  
に使  
われ  
る

企業概要 一九六六年六月設立。社員数約百人、資本金六千六百万円。フロントローダーでは四十五億円ある国内市場全体の約七〇%を占めている。二〇〇一年五月期の売上高は二十七億五千万円。

だが、小室社長は「ベンチャー企業的な姿勢はすっかり維持してきた」と強調。主力製品の減収を補うために様々な新商品を投入してきた。まず開発したのが空調機の室外機取り付けなど

売を始めたのが樹木破碎機。近隣に迷惑をかけ、環境汚染にもつながるとして野焼きが困難になったのに対応して樹木破碎機の製造に参入する業者が増えてい

## 「環境」軸に新事業模索 相次ぎ 商品投入

### 三陽機器 フロントローダー製造

いタイプだったが、同社は七一年に取り外し可能なローダーを開発して一気に売上高を伸ばした。ちょうどトラクター需要が大きく拡大した時期にも

あたり、業容は急拡大。ピークの七八―七九年ごろに一年間の生産台数が一万二千台、売上高も四十一億円に達した。やがて減反政策の影響などでトラクターの

販売自体が低下し、ローダーの需要も落ち込んだ。千台、売上高も四十一億円が現在生産しているローダーはピーク時の半分ほどに過ぎない。

の際に使う簡易リフト。油圧技術の応用で作り上げたこの商品は、建設需要旺盛

破砕機も投入。農家だけでなく、造園業者などにも売

企業を目指して努力した結果、かつて売上高のほぼ一〇〇%を占めていたローダーも今では六五%まで低下した。ただ、売上高そのものピーク時の約三分の二にとどまっている。新たな成長事業の模索はしばらく続きそうだ。